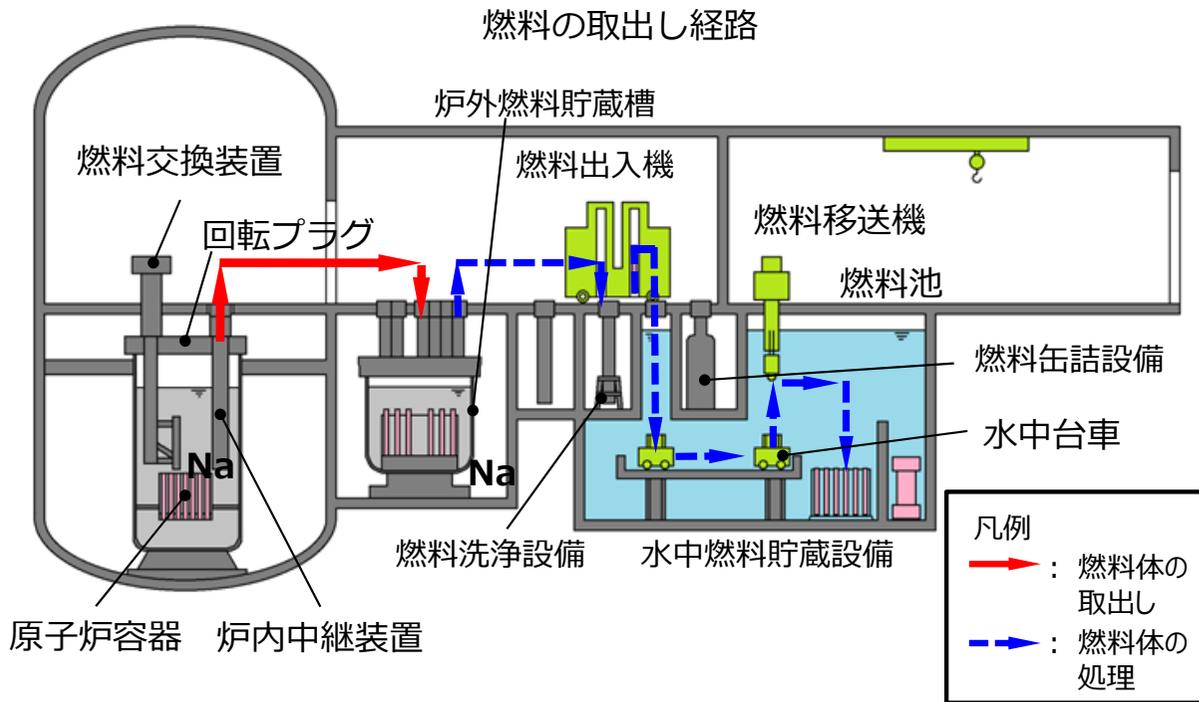


「高速増殖原型炉もんじゅ」の 廃止措置に係る対応状況と今後の取組み

2019年10月28日

国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構

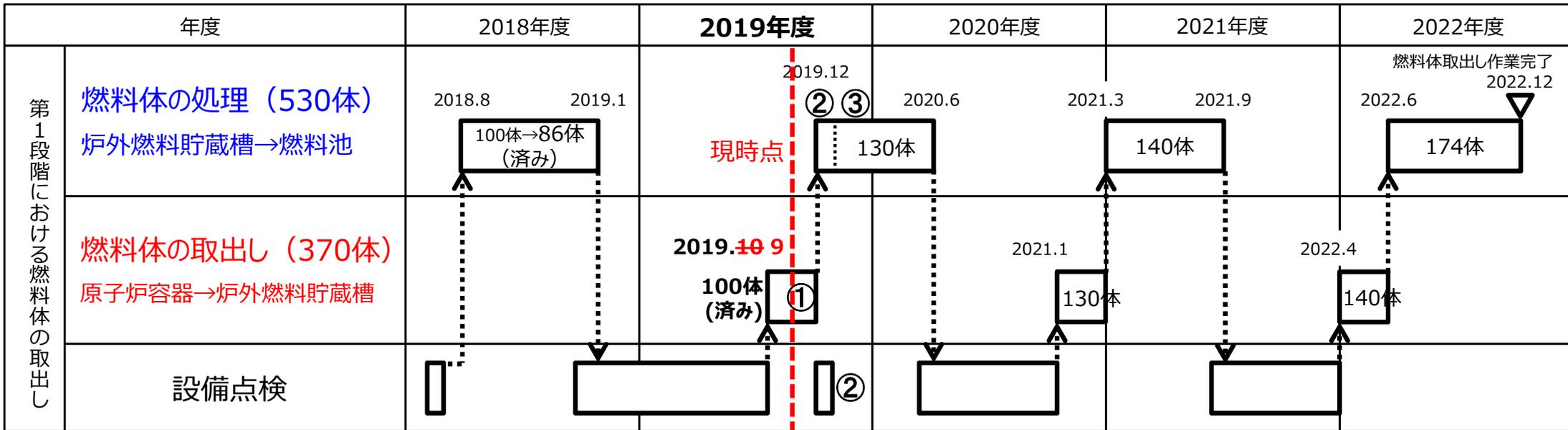


- 原子炉容器から炉外燃料貯蔵槽への燃料体の取出しについて、10月の開始に向けて点検作業等を進めた結果、予備日等を使うことなく順調に進んだため、9月17日から開始した。
- 5班による直体制等により取出し作業を実施した結果、10月11日、計画していた100体の取出しを完了した。

廃止措置開始以降の燃料体の装荷及び貯蔵状況

	廃止措置開始時	2018年8月30日 ～2019年1月28日	2019年9月17日 ～10月11日	2022年度 取出し完了
炉心	370	370	270	0
炉外燃料貯蔵槽	160	74	174	0
燃料池	0	86	86	530

※燃料池には上記表のほか、過去に取出した2体を貯蔵している。



今後の作業工程

① 現在、「燃料体の取出し」作業として、原子炉上部に据え付けた燃料交換装置等の機器の片付け作業（取り外しや洗浄等）を実施中



② 「燃料体の処理」作業として、まず、燃料出入機の分解・手入れや昨年度の不具合を踏まえた機器の改良、事業者自主検査（施設定期検査）等を実施



③ 炉外燃料貯蔵槽から燃料池への移送作業を実施

- 原子炉からの燃料体の取出しを、9月17日に開始し、10月11日、計画していた100体の取出しを完了した。現在、燃料体の取出しに使用した機器の片付け作業等を実施しており、引き続き、安全を最優先に作業を進めていく。
- 炉外燃料貯蔵槽から燃料池への燃料体移送に向け、燃料出入機の分解・手入れや昨年度の不具合を踏まえた機器の改良、事業者自主検査（施設定期検査）等を実施し、準備に万全を期す。
- 今後も、もんじゅの廃止措置を安全に進め、透明性を確保し、立地地域の皆様及び国民の皆様のご理解のもと、社会への貢献を果たすべく、誇りと使命感を持って一丸となって取り組んでいく。

参 考

ふげんの廃止措置対応状況

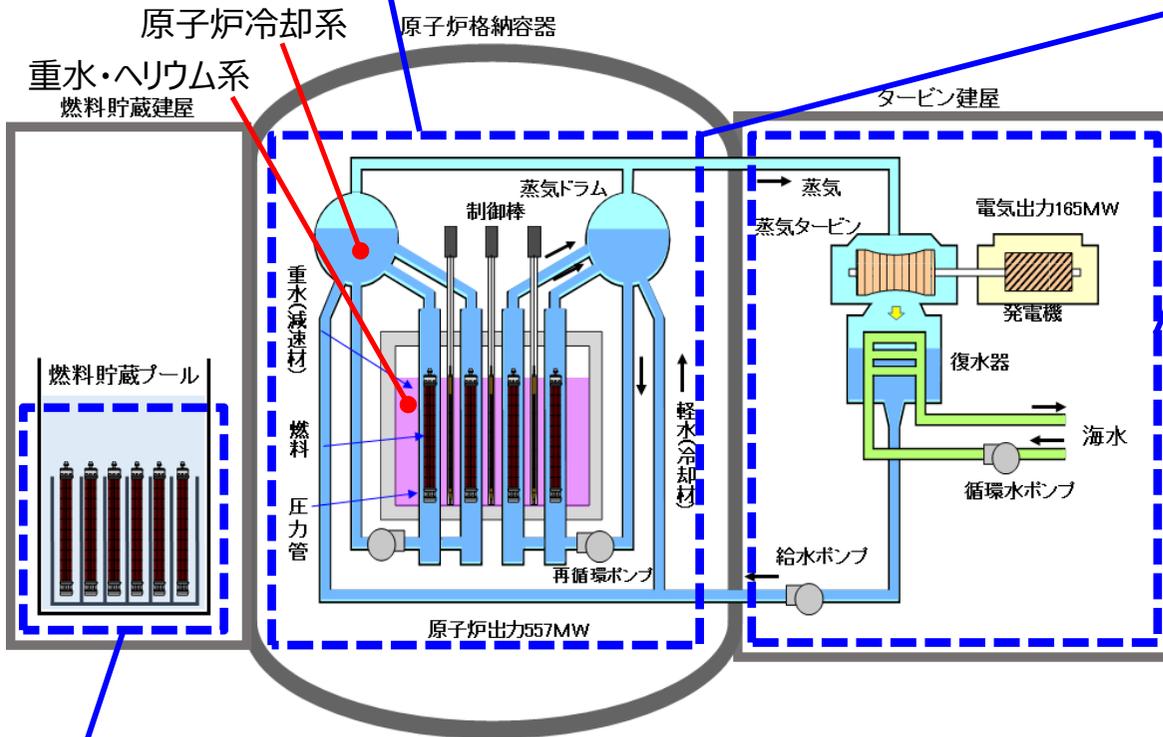
- 「ふげん」は、2003年3月に約25年間の運転を終了。
- 2008年2月に廃止措置計画の認可を受け、2033年度終了の予定で廃止措置を進めています。

■ 原子炉冷却系統の除染等

- 2003年度 原子炉冷却系統の化学除染
- 2003～2014年度 重水(減速材)の回収と施設外搬出(約270トン)
- 2008～2017年度 重水系・ヘリウム系統のトリチウム除去

■ 原子炉周辺設備の解体撤去

- 2017～2018年度 主蒸気隔離弁及び隔離冷却系配管、空気再循環系等を解体撤去
- 2019～2020年度 原子炉周辺設備のうち、Aループ側一次冷却設備等の解体撤去準備作業中(2019年7月1日～)



■ タービン設備の解体撤去

- 2008～2017年度 復水器や給水加熱器、湿分分離器等を解体撤去
- 2019～2020年度 原子炉給水ポンプ等(壁貫通工事含む)の解体撤去準備中

■ 屋外機器等の解体

- 炭酸ガス貯槽等の解体作業中(2019年10月7日～)

■ 原子炉本体からの試料採取技術の実証

- 原子炉下部からの試料採取(6試料)を完了
- 原子炉側部からの採取を実施予定

■ 解体撤去物のクリアランス測定

- 対象金属約1,100トンのうち、2018年度測定済約49トンについてクリアランス確認申請実施(2019年6月11日申請)

■ 使用済燃料

- 燃料貯蔵プールにおいて、466体を保管中
- 2018年10月に仏国のオラノ・サイクル社と締結した契約に基づき、輸送キャスクの製造に向けた検討などを進めている。